

株式会社 アベキン

DX宣言書

2026年9月3日
株式会社 アベキン
代表取締役社長 阿部 隆樹

□ 経営理念

私たちの理念はものづくり、価値づくり、ファンづくりの3つを基盤としています。高い技術力を元に、常に高いレベルに挑戦し続ける「ものづくり」。ものづくりのスキルを武器に、クライアント目線でのクオリティ、コスト、納期にフレキシブルに対応する「価値づくり」。価値づくりで得られた信頼をベースに培う「ファンづくり」。グループ丸となって3つの「つくり」に取り組み、100年企業を目指して人材を育て、未来へ繋がる仕組みを構築していきます。

□ DXビジョン(2～3年後にありたい姿)

- ◆ デジタル技術を活用して受注から製造・出荷までの情報を一元管理し、可視化することで多品種・少量生産に対応できる柔軟で効率的な生産体制を構築します
- ◆ デジタル技術を活用し、部署間のコミュニケーションと情報共有を円滑にすることで、業務効率化を図るとともに、より良い製品づくりを通じたお客さまへの価値提供を実現します
- ◆ 持続的な成長を実現し、未来への投資を加速することで、「空間づくり」の会社へと発展していきます

□ DX戦略・施策

➤ フェーズ1(現在 ～ 2027年8月)

戦略 「DX推進基盤の整備と情報共有の仕組みづくりを通じたDX認定の取得」

- 施策
- ・ 全社員が必要な情報を迅速に共有できる環境を整備するため、チャットツールや社内共有ルールの見直し・定着を推進
 - ・ 在庫管理の属人化の解消に向けて、受入・保管ルールを整備し、在庫管理方法を統一
 - ・ 受注・製造・図面・顧客情報等の管理状況を整理するため、各部署で管理している情報の棚卸しを行い、管理ルールを統一
 - ・ 案件の進捗状況、今後の受注予定、在庫状況、生産計画の可視化を主眼にしたDX推進計画を策定

➤ フェーズ2(2027年9月 ～ 2028年8月)

戦略 「業務プロセスのデジタル化による可視化と標準化(DX認定の内容の具現化)」

- 施策
- ・ 受注情報や顧客対応履歴を一元管理することで、情報共有の強化と担当者への問い合わせ集中を解消
 - ・ 適切な在庫管理を実現するため、受注・案件管理システムに、在庫の所在や数量を全部署がリアルタイムで確認できる仕組みを構築
 - ・ 納期管理の精度向上に向けて、生産計画や工程の進捗状況を共有できる仕組みを構築し、工程全体の可視化を推進
 - ・ 属人化の解消に向けて、製造工程の作業手順や熟練工のノウハウをデジタルでマニュアル化し、誰もが必要な情報を確認できる環境を整備

➤ フェーズ3(2028年9月 ～ 2029年8月)

戦略 「データ活用による生産性向上と持続的な企業成長の実現」

- 施策
- ・ 迅速な経営判断を実現するため、受注・生産・在庫・売上データを統合したダッシュボードを構築
 - ・ 生産性向上と納期遵守率の向上に向けて、蓄積したデータを活用した生産計画・負荷分析を実施
 - ・ 継続的な業務改善を実現するため、データ分析結果を活用した改善活動を全社へ展開
 - ・ DXによる効率化とデータを活用した改善活動により持続的な成長基盤を強化し、社員の処遇に反映
 - ・ 自社ブランドを発展させ、「空間づくり」の会社を実現するための新たな投資を検討

□ DX推進体制

- ・ 代表取締役社長がDX推進における実務執行統括責任者を務めます
- ・ DX推進チームがDX戦略実行の中心的役割を担います

□ DX推進目標

- ・ 情報共有ツール利用率 : 90%以上(～2027年8月)
- ・ 情報共有基盤の構築 : 完了(～2028年8月)